

## 伊勢崎市指定史跡

# 権現山遺跡

指定年月日: 昭和41年4月12日 所在地: 豊城町1989-3

## お問い合わせ

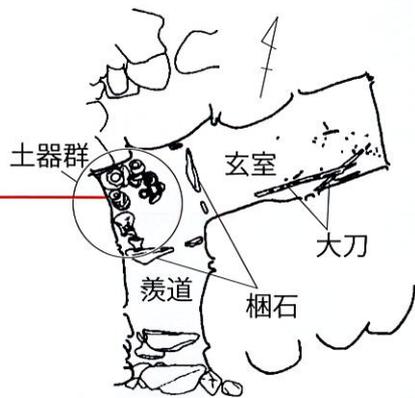
伊勢崎市教育委員会 文化財保護課  
〒372-0036 伊勢崎市茂呂南町5097-2  
電話 0270-75-6672 Fax 0270-75-6673  
E-mail: bunkazai@city.isesaki.lg.jp

伊勢崎駅から東へ2.5kmほどのところに住宅に囲まれた森が見えます。ここは権現山という丘陵で、周辺を鎮守する神社や散策道、野鳥観察などで市民に親しまれています。権現山は、相澤忠洋氏が昭和25年に切り取られた崖面の旧石器時代に相当する層から石器を発見したことと、権現山東側から北側を中心に古墳が30基程度残っていることから、昭和41年に伊勢崎市の史跡に指定されました。

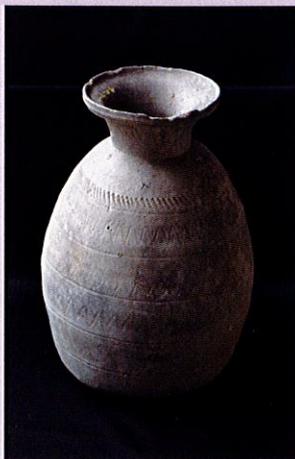
権現山遺跡の周辺は遺跡の宝庫で、指定地の周辺からは、東京国立博物館に所蔵されている国重要文化財の盛装女子像や鬘形埴輪(裏面参照)など多くの出土品が発見された事で知られています。また、埴輪の出土記念碑や石器出土の標柱が地元の人たちによって立てられ、地域の宝である歴史を語り継いできたことを感じられる地となっています。



上空から見た権現山遺跡



L字形の権現山2号墳石室  
(群馬県史資料編3から引用)



平底の須恵器壺 (蓮神社所蔵)

### 【権現山2号墳】

昭和45年に権現山東側の道路を広げる工事のために4基の古墳(権現山1~4号墳)を調査しました。どの古墳も横穴式石室を埋葬施設とする古墳で、6世紀から7世紀(1500~1400年前)にかけて造られたと考えられます。2号墳は6世紀前半(1500~1550年前)に造られた古墳です。この古墳の横穴式石室は遺体を埋葬する玄室と通路となる羨道とが直角に折れていてL字形をしています。このような形の石室は大変珍しく市内では権現山2号墳だけです。玄室と羨道の境には柵石を置くことで空間を分けています。玄室側の柵石よりも奥は大刀や鉄鏃などの武器や管玉などの装飾品を副葬し、被葬者が生前に身につけていたものを想像させてくれます。一方、柵石よりも手前では須恵器や土師器など土器が出土しており、死後の世界での飲食をするための道具として置いたことが考えられます。なかでも平底の須恵器壺は、渡来人とのかかわりがあるといわれる土器で、L字形の石室と合わせ、被葬者が、新たにこの地を開拓した人を想像させてくれる資料となります。

### 【埴輪 盛装女子】

伊勢崎市豊城町から出土した古墳時代（6世紀）の埴輪で、大きなイヤリングやネックレス、ブレスレット等で着飾っている高貴な女性であると思われます。服装は上下に分かれた服で、下はスカートのように広がっています。髪は島田髷で額に豎櫛を挿して、当時の様子が全身で分かる稀な埴輪です。東京国立博物館の所蔵で、国重要文化財に指定されています。



出典：ColBase  
(<https://colbase.nich.go.jp/>)

### 【翳形埴輪】

伊勢崎市豊城町から出土した古墳時代（6世紀）の埴輪です。星のような形に見えますが、高貴な人の顔が見えてしまうのは恐れ多いので、従者がさしかけるうちわ状の道具を表した埴輪と考えられています。同じ場所から矢を入れる道具の鞆の形をした埴輪や盾の形をした埴輪が出土しています。これらの埴輪は、東京国立博物館が所蔵しています。



出典：ColBase  
(<https://colbase.nich.go.jp/>)

### 【権現山周辺地図】



岩宿遺跡発見で全国的に知られている相澤忠洋氏が、権現山南麓崖部で旧石器時代とされる地層で石器を発見しました。石器が発見された場所は擁壁がつくられ、現地を見ることはできません。現在は、地元の殖蓮史談会により児童遊園内に標柱が作られ、残されています。